

公共事業再評価調書（再々評価）

所管課：河川課

1 事業概要  (整備目的)	事業名：小波津川河川改修事業		前再評価年度：平成24年度		
	事業種別：総合流域防災事業	事業主体：沖縄県	(H15～H35)		
	事業箇所：西原町	根拠法令：河川法	事業期間：H15～H40		
	総事業費(百万円)：8,503	費用内訳：補助 9/10	事業量：3.8km		
1-2 前再評価以降の計画変更	河口から役場までの区間の整備に目途がたち、役場から上流の設計に着手予定ではあるが、全体の整備期間を鑑み、事業期間の延長を行う。				
2 再評価該当項目	<input checked="" type="checkbox"/> ① 再評価後一定期間(5年)を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業の中止 <input type="checkbox"/> ③ その他( )				
3 再評価に至った主な要因  (具体的理由)	<input checked="" type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input type="checkbox"/> ⑨ その他( ) ・国道329号下流部において用地取得が難航していた。 ・事業が平成35年度までの長期計画として設定している。				
4 事業の進捗状況  (H29.3時点)	項目	事業費(百万円)	整備(km)	用地取得(千㎡)	
	計画	8,503	3.8	64.1	
	実施済	5,457	0.8	31.9	
	率	64%	21%	50%	
4-2 前再評価以降の主な進捗	国道329号下流部の用地取得難航案件が解決し、河口部から国道329号までの区間について、概ね整備が完了している。				
5 事業効果の評価指標  (検討年50年) (基準年H29) (単位：百万円)	① 一般資産	55,456		① 建設費	7,807
	② 農作物	232		② 維持費	2,440
	③ 公共土木施設	93,945			
	④ 間接被害額	10,785			
	便益(B)	160,419			
	基準年換算(B')	51,944			
	⑤ 残存価値	166		総費用	10,247
	総便益	52,110		基準年換算(C)	10,263
	費用便益比(B/C) = 52110 / 10263 = 5.1				
6 事業を巡る状況の変化  (前再評価以降)	① 社会・経済： 浸水想定区域内において、西原町役場新庁舎が平成26年に移転してきた。				
	② 地元・自治体： 平成29年6月19日の豪雨による浸水被害を受け、8月14日に西原町から土木建築部長あて早期改修の要請があった。また、平成29年11月議会において平園自治会から県議会あて災害時避難所建設の陳情が提出された。				
	③ 利害関係者： 特に問題なし。				
7 事業の必要性・効率性	① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 未整備区間については河川の流下能力が不足しており、依然として集中豪雨等による洪水被害が頻発していることから、早期整備の必要がある。				
	② 事業の効率性(代替案等の可能性やコスト削減)： 役場前までの用地取得が概ね完了しており、河川の両岸に沿って西原町道事業とも連携し実施していることから、現計画を推進することが効率的である。				
	③ 事業効果の発現状況： 河口部から国道329号までの区間については、整備が概ね完了し、同区間の浸水被害が軽減された。				
8 今後の対応・見通し	① 事業計画等： 国道329号から役場前の区間について、平成35年度までに整備完了を目指す。引き続き役場から上流部については、現計画通り事業を進め平成40年度までに整備完了を目指す。				
	② 対住民関係： 特に問題なし。				
	③ 執行体制等： 現体制で執行可能である。				
9 対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止				
10 その他  (前再評価での主な意見等)	・河川改修を実施する前に生物相調査をしておき、実施した後にどれだけ効果があったのかデータを残してもらいたい。 ・都市部ということもあり、洪水や氾濫が続くことはよくないので、役場までの区間だけでも計画どおり進めてもらいたい。				

\* 1事業概要の上段( )は前再評価時点の計画